



報道関係者 各位

2026年9月24日

取材のお願い

**電気自動車の電気で、「防災ごはん」を。
「TOYOTA SOCIAL FES!! in MASAKI 青空防災キッチン」に
松山東雲短期大学「しののめベジガール」が参加【10/4】**

～ 中学生・高校生・短大生の混成チーム／災害食を研究する栗原和也准教授が指導 ～

松山東雲短期大学 食物栄養学科の学生ユニット「しののめベジガール」が、2026年10月4日（日）に松前公園で開催される「TOYOTA SOCIAL FES!! in MASAKI ― 青空防災キッチン！もしもの時の安心レシピ」（主催：愛媛新聞社／協力：松前町）に協力団体として参加します。

電気自動車（EV）から電気を取り、青空の下で防災ごはんを作る企画です。中学生・高校生・短大生がくじ引きで混成チームを組み、「家にある防災食になるもの」から材料を選んで、2時間で料理を仕上げます。

本学からは災害食を研究する栗原和也 准教授、田中洋子 教授、「しののめベジガール」7名が参加します。

今年7月の熊本地震、8月の千葉豪雨と、ライフラインが断たれる災害が続いています。電気もガスも水道も止まった状況で、どう食べるのか。ぜひご取材くださいますようお願い申し上げます。



写真は、本学学生と栗原准教授による防災食づくり【バッククッキング】の様子



◆ 開催概要・取材対応

- ・ 日時：2026年10月4日（日）10:00～13:00（受付 9:30～）※小雨決行
- ・ 場所：松前公園 多目的広場（伊予郡松前町）
- ・ 主催：愛媛新聞社 協力：松前町
- ・ 本学の参加者：食物栄養学科 栗原和也 准教授、田中洋子 教授、「しののめベジガール」7名
- ・ 他の参加団体：松山学院高等学校 調理科 生徒25名、北伊予中学校 生徒 福八モテナス（防災キッチンカー2台）ほか
- ・ 取材対応：学生・教員へのインタビュー可

◆ 防災キッチンの内容

会場では、非常食「アルファ化米」を使ったパエリアの試食、コーヒーかすや新聞紙を使った消臭剤づくり、電気自動車（EV）からの給電の見学など、災害への備えを「食べる・作る・知る」の3つの観点から学ぶプログラムが行われます。

「しののめベジガール」は、トヨタ販売各社の名前を冠した調理チームに加わり、中学生・高校生と一緒に防災メニューづくりに取り組みます。

◆ いま、「防災食」を学生が学ぶ意味

① 相次ぐ災害と、断たれるライフライン

2026年7月に発生した熊本地震や8月の千葉豪雨では、住宅被害に加え、停電や断水が広い範囲で続きました。電気も水も止まったなかで「どう食べるか」は、身近な問題として考えておく必要があります。

② 南海トラフ地震に備える愛媛で、食の専門人材を育てる

災害時、避難生活が長引くほど食事の偏りは健康被害に直結します。エネルギーやたんぱく質の不足、高齢者や持病のある方への配慮などが必要になります。栄養士を目指す学生が在学中に災害食を学ぶことは、地域の防災体制に寄与する取り組みです。

③ 世代の違う参加者が一緒に作る

今回の調理チームは、中学生・高校生・短大生がくじ引きで混成されます。年齢も経験も異なるメンバーが、限られた材料で一つの献立を組み立てます。栄養士を目指して学んできたことを、短大生が年下の参加者と手を動かしながら共有する場になります。

◆ 栗原 和也 准教授（松山東雲短期大学 食物栄養学科）について

「災害食に関する研究」を研究テーマに掲げ、日本災害食学会・日本災害医学会に所属。日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）研修会の運営委員、管理栄養士専門分野別人材育成事業「災害に係る栄養・食生活に対応できる管理栄養士の育成に向けた推進委員会」委員などを務めています。

主な活動：

- ・ 松山市 防災士フォローアップ講座 講師（2024年・2025年・2026年）
- ・ 論文「女子短期大学生の食料備蓄と防災に関する意識調査」（松山東雲短期大学研究論集54、2023年）
- ・ 学会発表「災害弁当の作成の取り組み 日本栄養士会災害支援チームJDA-DATの後方支援」（第23回日本集団災害医学会総会、2017年度）

「食を通して防災・減災活動に貢献します」を掲げ、平常時からの備えと被災時の食環境整備の両面で、地域と関わり続けています。

◆ 田中 洋子 教授（松山東雲短期大学 食物栄養学科）について

公衆栄養学・栄養教育論を担当。管理栄養士としての実務経験を経て現職。「しののめベジガール」の指導教員として、地域の健康課題解決に取り組んでいます。松山市・東温市の食育推進会議 委員（副会長）、愛南町食育推進協議会 委員なども務め、行政と連携した食育活動を続けています。ベジガールの取組は、2020年に中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定され、文部科学省「全国学生調査（2024年度）」でも教育の優良事例として公式ホームページに掲載されました。

◆ しなのめベジガールについて

松山東雲短期大学 食物栄養学科の学生で構成されるチーム。愛媛県が推進する「愛顔（えがお）のE-IYO（えいよう）プロジェクト」の一環として2017年にスタートし、今年で10代目を迎えます。地元野菜を使った朝食メニューやスムージー、スープ、スイーツなどを考案し、地域の健康づくりや食育に貢献。企業や団体とのコラボレーションを通じ、地域課題の解決に取り組んでいます。野菜の帽子がトレードマークです。



※ 取材の際は事前にご連絡いただけますと助かります。

【お問い合わせ・取材申し込み】

松山東雲短期大学 食物栄養学科 栗原 和也／田中 洋子

TEL：089-931-6211（代）

【発信元】

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 広報

Mail：kouhou@shinonome.ac.jp